

令和2年度教育研究（研修）・教育指導の充実に関する研究グループ

教育研究（研修）に関する取組

1 教育研究（研修）グループ組織

グループ主任	妹尾 洋美（智恵文中学校長）	
副主任	秋保 利弘（名寄東小学校長）	小林 勝彦（中名寄小学校長）
委員	高田 秀人（風連中央小学校長）	里村 徹（名寄西小学校長）
	櫻庭 一也（名寄東中学校長）※副委員長	片原 俊光（名寄中学校長）※事務局長
研究主任	尾崎 雄一（風連中央小学校 教頭）	
研究委員	澤田 克之（名寄小学校 教頭）	谷柿 憲治（名寄中学校 教頭）
	三戸 孝之（智恵文小学校 教頭）	久保 康德（智恵文中学校 教頭）
	西尾 圭一（中名寄小学校 教頭）	桑原 久美（名寄南小学校 教頭）※統括責任者
	田中 淳也（名寄南小学校 主幹教諭）	

2 研究内容

A ミドルリーダー等の育成を図る研究(研修)の推進	参加対象	担当
(1) 日常実践に直結する校内研修（ミニ研修等）の充実	研修担当	妹尾校長 ◎三戸・尾崎
(2) 教育課題に応じた視察研修の立案・実施と成果の発信	コロナ対策で担当者	妹尾校長 ◎尾崎
(3) ミドルリーダー等の育成を図る交流やメンター研修等の充実	教務主任	小林校長 ◎谷柿・田中
(4) 学校経営計画と連動した学年・学級経営案の検証・改善		

<p>【A-1】 日常実践に直結する 校内研修(ミニ研修等) の充実</p> <p>(1) 各校の研究主題・研究 計画(スケジュール)の 集約と周知</p> <p>(2) 研修の交流と自校への還 元の推進</p> <p>(3) ミニ研修・実技研・授業 研への参加の推進</p> <p>※他校の参加可能なミニ研修 を集約し周知、参加集約・該 当校への参加推進(名簿作成 は担当)</p>	<p>【A-2】 教育課題に応じた視察研 修の立案・実施と成果の 発信</p> <p>(1) 学校力に関する 総合実践事業に関 する先進校の取組 の視察研修の立 案・実施</p> <p>(2) 研修成果のまとめ と周知・還元</p>	<p>【A-3】 ミドルリーダー等の育成を図る交流やメンター研修等の充 実</p> <p>(1) ミドルリーダー研修による交流</p> <p>①各校の悩み・課題等の実態交流</p> <p>②小中連携に関わる取組の推進</p> <p>③メンター研修の課題・成果の実態交流</p> <p>【A-4】 学校経営計画と連動した学年・学級経営案の検証・改善</p> <p>(2) ミドルリーダー研修による交流</p> <p>①学年・学級経営案の成果と課題の交流</p> <p>②学年・学級経営案の改善策のまとめ</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 今年度の活動経過

年	月	日	【A-1】 日常実践に直結する 校内研修(ミニ研修等)の充実	【A-2】 教育課題に応じた 視察研修の立案・実施と成 果の発信	【A-3】 ミドルリーダー等の育成を図る 交流やメンター研修等の充実 【A-4】 学校経営計画と連動した学年・ 学級経営案の検証・改善	
2	5	11	□第1回教育改善プロジェクト委員会全体会議(書面開催)			
		25	□第1回教育改善プロジェクト委員会研究グループ会議 ●研究内容・計画の説明、分担等 ●各取組の年間活動計画の検討			
	6	15	□第2回教育改善プロジェクト委員会研究グループ会議 ●研究推進計画の説明			
		25	□第2回教育改善プロジェクト委員会全体会議 ●研究推進計画等の確認			
	7	3	○研究主題・研修計画(スケ ジュール)参加可能ミニ研 修の集約計画	○先進校への視察研修の 計画立案・連絡調整	第1回ミドルリーダー研修会(6/8) ○今年度の活動計画の確認 ○各校のメンター研修等の人材育 成の取組の交流① ○各校の課題等の交流・改善	
			○研究主題・研究計画(スケ ジュール)の周知計画			
	8	5	○参加可能ミニ研・授業研・ 実技研案内		第2回ミドルリーダー研修会(7/28) ○各校のメンター研修等の人材育 成の取組の交流② ○中学校新学習指導要領の全面実施に 向けた小中連携の取組の交流 ○各校の課題等の交流・改善	
			○学校研究、校内研修会調査 (7/3)			
9	4	○参加可能ミニ研・授業研・ 実技研案内	○先進校への視察研修の 連絡調整	第3回ミドルリーダー研修会(8/25) ○キャリア・パスポートの内容確認① ○優れた実践の紹介 ○各校の課題等の交流・改善		
		○学校研究、校内研修会調査 結果周知				
10	30	○参加可能ミニ研・授業研・ 実技研案内	○先進校への視察研修の 実施計画修正の周知 (10/12)	第4回ミドルリーダー研修会(10/20) ○学年・学級経営案の検討 ○キャリア・パスポートの内容確認② ○各校の課題等の交流・改善		
		○成果と課題の検討	○先進校への視察研修の			

			実施	
11	10	○A-1 グループ研修開催 ・ミニ研修交流 ・研修進捗状況交流	○視察研修のまとめ ○成果と課題の検討	
12	7			第5回ミドルリーダー研修(12/7) ○次年度スクールカレンダーの交流 ○キャリア・パスポートのファイル管理について ○成果と課題の確認 ○各校の課題等の交流・改善
	8	□第3回教育改善プロジェクト委員会全体会議・研究グループ会議 ●各取組のまとめ ●研究の成果と課題の提示 ●次年度について		
3	1	☆教育長へ研究のまとめを報告(答申)		
	26	名寄市教育研究集会 EN-RAYホール		

4 今年度の活動

(1) 日常実践に直結する校内研修(ミニ研修等)の充実

資料1

- 1) 各校の研究主題、研修計画・参加可能研修調査の集約と周知
- 2) 各校のミニ研修交流と還元の推進、研修の進捗状況の共有

(2) 教育課題に応じた視察研修の立案・実施と成果の発信

資料2

- 1) 学校力に関する総合実践事業に関する先進校の取組の視察研修の立案・実施
 - 目的～名寄市内小中学校教員を、学力及び体力向上、その他今日的教育課題に先進的に取り組んでいる先進校へ派遣し、その取組等について研修することにより、自らの職能の向上とともに、視察の成果を各学校へ普及させる。
 - 日時～令和2年10月30日(金) 9:00～15:10
 - 研修先～旭川市立大有小学校(学校力向上に関する総合実践事業学校指定校)
 - 参加者～名寄市教育改善プロジェクト委員会
教育研究(研修)・教育指導の充実に関するグループ主任・研究主任 計2名
 - 日程～①日常の授業参観 ②特設授業 1・5学年、知的学級 ③全体会 ④研究討議 ⑤教育講演会
- 2) 研修成果のまとめと周知・還元
 - 先進校等視察研修の報告書を作成し、成果と課題を全小中学校へ配付
 - 先進校の研究資料を全小中学校へ配付

(3) ミドルリーダー等の育成を図る交流やメンター研修の充実(ミドルリーダー研修会を通して)

資料3

- 1) 各校の悩み・課題等の実態交流
- 2) 小中連携に関わる取組の推進
- 3) メンター研修の課題・成果の実態交流

(4) 学校経営計画と連動した学年・学級経営案の検証・改善(ミドルリーダー研修会を通して)

資料4

- 1) 学年・学級経営案の成果と課題の交流
- 2) 学年・学級経営案の改善策のまとめ

5 成果と課題

【成果】

- 研究主題を集約・周知することで、名寄市の小中学校として研究の方向が明らかになった。
また、各校研究のPDCAサイクルのCAのきっかけとなる情報としても有効だった。
- 担当者を集めた交流会では、各校の優れた実践の交流を行うことができた。また、実践交流後のアンケートに、今年度中に取り組みたい研修が多数上げられたことから、アイデア提供の一助となるなど一定の効果があったと考えられる。
- 学校力向上に関する総合実践事業の先進校の実践発表会（地域連携研修）に参加し、学校力向上の取組や日常の授業改善に資するための研修や授業実践、今後の方向性について研修を深めることができた。
また、落ち着いた学習環境に継続して取り組んでいく重要性を改めて確認できた。
- 学校力向上に関する総合実践事業の取組として、「人材育成」の重要さとその方策が、参考になった。
- ミドルリーダー研修会は、コロナ禍での授業時数の確保の仕方や通知表の発行時期など、各校の課題を交流・協議することで日常の学校運営に役立つ大切な場になった。
- 人材育成の方法としてOJTやメンター研修、ミニ研修について学習したり、各校のメンター研修の実態や内容について交流したりするなど、ミドルリーダーとしての資質・能力を高めることができた。
- 新学習指導要領が求めている資質・能力やカリキュラム・マネジメントなどを研修・協議し、各校のロードマップを交流することで、学校運営に役立てることができた。
- 小中連携の取組の1つとして、9年間を見通したキャリア・パスポートを作成し、次年度より小学校1年生から中学校3年生までの全ての児童・生徒用ファイルを名寄市で統一して実践を進める。

- 各校のミドルリーダーの優れた実践や知識、経験を市内で共有するため、「生きづらさをかかえた子どもたち～「愛着」から読み解く～」についてミドルリーダーを講師として行った。子どもの心理について学習し、教育相談の機能について理解を深めた。また、「学力向上の取組」の講習から校内組織体制や具体的な学力向上の取組についても学習するなど、教務や生徒指導面の双方から校内のリーダーとしてのスキル向上に役立てることができた。
- 学年・学級経営案の成果と課題を交流し、次年度へつなげることができた。

【課題】

- ▲参加可能研修の集約を行い周知したが、コロナ禍ということもあり他校への参加は少なかった。
感染拡大リスクを避けることから、積極的な周知とならなかった。
- ▲実践交流のねらいの周知の手立てや時期の検討が必要だった。
- ▲研究先進校における学校力向上の推進体制や実践を直に視察したり、参加したりすることがコロナ禍のため制限があり、各学校からの参加体制がとれなかった。今後は、リモートや研修資料を取り寄せて教員同士で交流するなど、教員の資質・能力の向上の一助となる手立てをとる工夫を行う。
- ▲月1回のミドルリーダー研修会を設定して研修を進めているが、学校運営に役立つ内容を、今後も委員と共有し検討していく。同時に、委員の負担とならないよう各校の実態交流や悩みを相談できる大切な場として継続して取り組みたい。